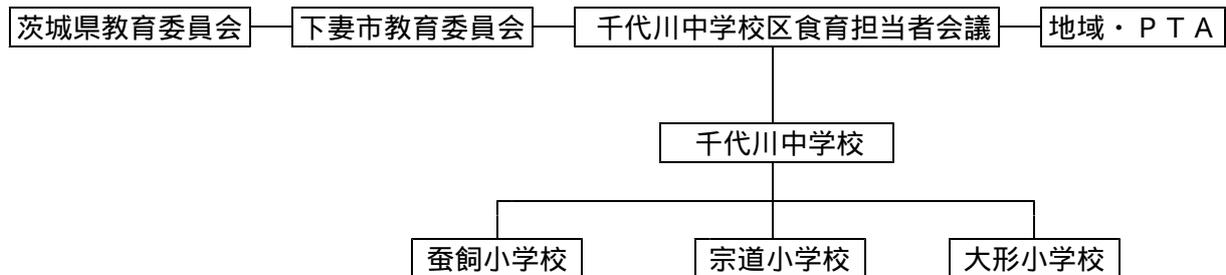


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	茨城県
推進地域名	下妻市 (千代川中学校区)

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校における食育に関する指導の充実
<p>1 千代川中学校区食育担当者会議の設定</p> <p>第1回 平成23年 6月29日(水)</p> <p>第2回 平成23年12月 6日(火)</p> <p>第3回 平成24年 2月14日(火)</p> <p>第1回では、実践中心校(千代川中学校)・実践協力校(蚕飼小 宗道小 大形小)の校長、給食主任、養護教諭、PTA会長、農政課、保健センター管理栄養士、食生活改善推進委員、教育委員会が本事業の趣旨や実践について共通理解をして、協力体制を確立した。(29名)</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">【第2回 食育担当者会議】</p> <p>第2回では、教育委員会事務局が事業全体の進行状況を確認したり、実践校がそれぞれの学校での取組を発表したりした。また、後半は、栄養教諭を講師に食育講習会を行った。</p> <p>第3回では、事務局が1年間の事業の報告を行い、県教育庁保健体育課学校給食係長である金澤彰先生より指導を受けた。</p> <p>食育は、組織を生かして、日々継続していくことが大切であることを全員で確認した。また、次年度も市の指定事業として食育を推進していくことにした。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;"> ハンバーガー・フライドポテト オレンジジュース(100%) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;"> ごはん・白身魚のフライ おひたし・根菜の煮物 すまし汁 </div> </div>  <p style="text-align: center;">エネルギーは同じでも... 約740 Kcal</p>	<p>【第2回 食育講習会配布資料一部】</p>
<p>2 発達段階に応じた食育の指導目標と指導内容の系統表の作成</p> <p>食に関する指導の全体計画、年間指導計画の見直し</p> <p>小学校1年生から中学校3年生までの発達段階に応じた指導目標の設定</p> <p>小学校1年生から中学校3年生までの系統性のある指導計画の作成</p>	

- 3 効果的な指導ができるための教材・教具の開発
 発達段階に応じた教材・教具の開発
 教材・教具が各学校で共有できるための教育情報
 ネットワークの活用
 教室・廊下等への掲示資料の作成



【大形小廊下 給食コーナー】

- 4 栄養教諭と学級担任による T T 指導を展開するための
 校内研修の充実

栄養教諭を講師とする校内研修の実践
 教科・領域における食育指導における共通理解
 学級担任と栄養教諭との T T の授業実践

事例 1 小学校 6 年生 学級活動「めざせ健康体！」

・ねらい

栄養のバランスを考えて野菜を食べたり、よくかんで食物を食べたり、運動したりすることの大切さを理解することができる。

・内容

メタパネル人形の日頃の食事内容から、野菜や副菜が少なく、脂肪が多いことに気づかせた。そして、生活習慣病と食生活が大きく関わっていることを学んだ。最後に健康チェックシートを使って日頃の食生活を振り返り、今後の生活習慣に生かせる目標をたてた。

・成果

授業後の児童の感想では、「好き嫌いがあるので、これからは気をつけたい。」「食事や運動によって生活習慣病にならないことがわかった。」等、意識の高まりや新しい知識が身についたことが確認できた。また、家庭にも協力を依頼し、児童の生活についての変化を記入してもらい、意欲づけた。



【宗道小 6 年生 めざせ健康体！】

事例 2 中学校 3 年生 家庭科 「日常食を見直そう」

・ねらい

本校 3 年生の「食についてのアンケート」の結果より、朝食内容を見ると「主食だけ」「ふりかけ飯」など、栄養バランスが悪いことが確認された。そこで、家庭科の時間を活用して、バランスのよい朝食をとることが、朝から脳を活性化させたり、体も元気になったりすることにつながることを学ばせたいと考えた。そして、数ヶ月後に高校入試を控える 3 年生が、しっかりした学校生活をおくり、入試に備えることができるようにさせたいと考えた。

・内容

グループで話し合い、栄養のバランスや彩り、カロリーを考えていろいろな献立を立てた。栄養教諭より栄養バランスの合い言葉は「まごわやさしい」で、この食材をとり入れた朝食をとることが理想であるという話を聞いた。最後にグループごとに、栄養教諭から献立が栄養的にバランスがとれているか



【栄養教諭による栄養バランス指導】指導を受けた。

・成果

バランスのよい朝食について学んだことを生かして、実際に調理実習を行い、実践化に向けて動きだした。調理実習のテーマは、「30分でできる朝食づくり～卵料理に挑戦しよう。」である。生徒は、卵料理の中に、「まごわやさしい」の食材を工夫して取り入れ、見た目や味づけにもこだわった朝食を作ることができた。



【調理実習】

テーマ2 学校給食を中心とした食習慣改善のための取組

1 アンケートによる実態調査

実態調査による児童・生徒及び保護者の変容分析（6月と12月との比較）
調査結果をもとにした研究内容の成果と課題の把握

2 学級活動や特別活動と連携した取組

委員会活動や係活動の充実
食事のマナーの指導，お箸の持ち方検定
掲示物，お便り等による啓発

3 学級担任と連携した取組

学校給食時における栄養教諭の教室訪問
学級担任と連携した栄養教諭による栄養指導
栄養のバランスのとれた献立づくり
会食のマナーの指導
楽しい給食（全校，誕生日，通学班，親子，お花見給食，ペア学年，卒業記念等）



【 蚕飼小 全校給食 】



【宗道小2年生 給食指導】

給食指導事例

2年生 給食指導 「マナーを大事にした食事」

・目標

食事のマナーはみんなと楽しく食べるために大切であることを理解し，マナーを身につけ友達と楽しく食事をしようとする態度を育てる。

・給食の様子

4校時に「マナーを大事にした食事」の指導をした後の給食であったので，良い姿勢で行儀よく食事ができた。

4 児童生徒による給食献立づくり

家庭科での学習を実際の献立に反映
お弁当づくりコンテストへの参加

リクエスト給食の実施

5 食育つうしんの発行（学期1回の発行）

各学校で分担して，学期に1回「食育つうしん」を発行して，取組を紹介した。



【食育つうしん 第2号】

6 「いばらき食育推進大会」先進事例発表
茨城県の食育の関係者（1,000名参加）
に下妻市の取組について発表した。

期日 平成24年1月19日（金）

場所 土浦市市民会館 大ホール

発表者 栄養教諭2名，指導課



【いばらき食育推進大会 発表】

1 家庭との連携

学校保健委員会での児童の食生活についての協議

- ・児童の生活習慣や食習慣の実態把握
- ・調査から見られる問題点・改善策及び意見交換
- ・学校医からの食生活・生活習慣の指導，助言
- ・食育推進事業がめざす方向についての確認

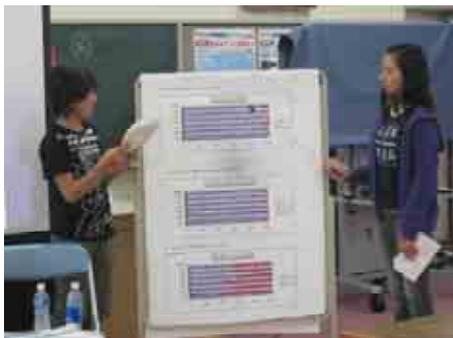
事例 大形小 学校保健委員会

テーマ「心身ともに健康で活力ある安全な生活を送るために～食育指導を通して～」

内容 学校三医，栄養教諭を講師に今年度は，児童の食生活や生活習慣について話し合った。



【大形小 学校保健委員会】



【児童発表 水筒の中身について】

保健委員会の児童からの「飲料のアンケート結果」の報告や養護教諭からの定期健康診断の結果の報告をもとに保護者，教師が話し合いをもち，学校での指導の方向性や家庭での生活の仕方を確認した。保護者からは，「専門家から適切なアドバイスをいただける良い機会なので，今後も続けてほしい。」「子どもたちが自分で調べて発表したことが話題で良かった。」等の好意的な感想が寄せられた。

歯科医からは，日頃の咀嚼の大切さ，学校薬剤師からはペットボトル症候群の指導があった。

保護者を対象とした料理講習会の実施

- ・平成23年 9月29日（木）千代川公民館
- ・時間 9：00～13：00
- ・参加者 58名
保護者，保健センター管理栄養士，食生活改善推進委員，栄養教諭等
- ・内容 「小中学生の朝食しっかりメニュー」
6月の児童・生徒の「食に関するアンケート」より，朝食の摂取率は比較的高いが，その内容に課題があることが確認された。そのため，テーマを上記の内容にした。



【料理講習会 試食】

2 地域との連携

生活科，総合的な学習の時間での体験活動の実施

- ・米づくり（苗づくり，田うえ，草取り等の活動）
- ・野菜づくり（GT 地域の農家の方）
- ・秋の収穫祭での発表（保護者，敬老会，地域の方）
- ・収穫した野菜の販売

食育講演会の実施（平成23年11月18日）

- ・会場 千代川中学校 体育館
- ・ねらい

栄養バランスのよいしっかりした朝食をとることが脳を活性化させたり，授業にも集中できたりでき学力向上にもつながることを学ぶ。

・内容

テーマ 「朝ごはんて頭の働きをSTEP UP！！」

講師 常磐大人間科学部栄養学科教授 医学博士 吹野 洋子先生

参加者 360名（千代川中学校生徒・保護者・教職員，食育担当者会議委員等）



【蚕飼小 秋の野菜の収穫】

テーマ1～3に共通する具体的計画

- 1 食に関するアンケートの実施
朝食を食べている割合が高いが、食事内容が「主食のみ」「主食と主菜」等、内容を改善していく必要がある。また、休日になると朝食を食べる割合が校種間で差が見られる。
- 2 実践校による情報の共有
学校間でネットワーク化されているパソコンを利用して、食に関する情報（教材・教具、お知らせ・お便り等）を共有したり、会議を減らしたりする等につとめている。
過去2年間の成果と課題を今年度の千代川中学校区の実践に生かしていく。
- 3 保護者や地域との連携
千代川中学校区食育推進担当者会議を設置し、地域の保護者、PTA、各種関連団体と協力体制を築き、地域での食への関心を高めていく。

数字で変化のあった事項について

食生活に関する調査を行い、児童・生徒・保護者の食に関する意識や実態の変容を調査した。
児童（一部抜粋）

No	項目	23年6月	23年12月	比較
1	いつも朝食を食べる割合（平日）	90%	91%	↗
2	いつも朝食を食べる割合（休日）	94%	85%	↘
3	朝食内容（主食・主菜・副菜・汁）	28%	29%	↗

生徒（一部抜粋）

No	項目	23年6月	23年12月	比較
1	いつも朝食を食べる割合（平日）	91%	94%	↗
2	いつも朝食を食べる割合（休日）	80%	80%	→
3	朝食内容（主食・主菜・副菜・汁）	13%	29%	↗

保護者（一部抜粋）

No	項目	23年6月	23年12月	比較
1	（保護者自身） 毎日、朝食を食べる割合	89%	94%	↗
2	（保護者自身） 給食関係等の配布資料を必ず読む割合。	93%	90%	↘
3	（子どもに） 三食必ず食べるように話す割合	97%	98%	↗

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

食育推進担当者会議を設置し、学校、保護者、PTA、行政等が組織的に食育に取り組んだことにより、食育推進のための下妻市のネットワークが構築された。

栄養教諭と担任が連携し、発達段階に応じた食に関する指導内容の検討を行ったり、授業を行ったりすることで、食に関する指導への理解も深まり、給食の時間や教科における指導も充実した。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

小学校、中学校の校種間で実態や関心に差が見られた。そのため、発達段階に配慮した食に関する指導の研究を継続的に行い、児童・生徒の心身の健康を育んでいく。

食育を推進するためには、家庭、地域とさらに連携した取組が必要となると考える。今回のネットワークを今後も活用しながら、地域と一体となった食育を推進していきたい。